



Chihiro Homuta *117*

June 9 ~ 23, 2024 / bicafe, 10 Yayoi-cho, Gifu City, Yanagase Souko No. 2 Building 1F

Open: 12:00 pm ~ 6:00 pm (Fridays only 3:00 pm ~ 9:00 pm) Closed: Tuesdays and Wednesdays / 1 drink order system

誉田千尋 117

2024年6月9日（日）～23日（日）

ビックカフェ

岐阜市弥生町10番地 やながせ倉庫2号館1階

営業時間：12:00～18:00（金曜日のみ15:00～21:00）

定休日：火、水曜日

ワンドリンクオーダー制

※ウェブサイト www.homuta.xyz にて、作家在廊日時を公開予定です。

アーティストトーク

6月15日土曜日 18:15～

入場料：500円（当日カフェ営業時間中にオーダーした方は無料）

ゲスト：金子智太郎（かねこともたろう）

愛知県立芸術大学准教授。専門は美学、聴覚文化論。「日本美術サウンドアーカイヴ」主宰。近年の主な研究テーマは戦後日本における美術と音の関わりや音響技術文化。

「聴覚メディアのアーティスト」を自認する誉田は、聴取の体験がもたらす「いま、ここ」の感覚と、それを強化するために行使されるさまざまな「技法」に着目してきました。この技法とは、遠い過去の出来事や知覚できない対象をありありと現前させるための巧妙な語り＝レトリックであり、その延長線上にある様々な媒体による演出を指しています。

いっぽうで、映画・録音・通信さらには標準時刻のような近代的な諸「技術」は、時間と空間を超えた同期の経験を私たちにもたらしました。インターネットが生活に欠かせないインフラとなった今日、その同期の精緻さはますます加速(?)しているようです。

NTT（旧電電公社）の電話時報サービスを題材にしたインスタレーション《117》は、こうした「技法」と「技術」の絡み合いから生まれる摩訶不思議な「いま、ここ」の感覚を、ユーモアと批評精神をもって提示し、ポストコロナの現代におけるアクチュアルな問題系へと私たちを接続します。

誉田千尋（ほむたちひろ）／林暢彦（はやしのぶひこ）

1992年愛知県生まれ。多摩美術大学を中退後コンピュータ音楽を独学。情報科学芸術大学院大学修了。音響と環境への「批判的な没入」をテーマに制作。イメージフォーラム・フェスティバル、豊田市美術館、MUSLAB 2023（エクアドル）等で映像・音響作品やパフォーマンスを発表。川添彩監督映画『とてつもなく大きな』（第73回カンヌ国際映画祭批評家週間選出）など映画音響の分野でも活動している。